

輝け瞳

発行:宇治久世教職員組合
宇治市大久保町上ノ山29-1
TEL:0774-44-6191
FAX:0774-44-8026
Mail:ujikuse@khaki.plala.or.jp

2025年3月定期大会号 全員用

第71回 宇治久世教職員組合定期大会 開催!

2025年2月22日(土)、勤労者福祉会館にて「第71回 宇治久世教職員組合 定期大会」を開催し約30名が参加しました。第1号議案から第5号議案までが満場一致で採決されました。

下川委員長の挨拶

学校現場では今、送る会であるとか、学年のまとめ、卒業式の取り組みも始まっていることと思う。そのような中、体調を崩す子どもや教職員がたくさんいて、学校が混乱したという話も聞く。また、教職員の人事も大枠は決まり、次年度に向けた学校での議論も始まろうとしている。この4月スタート以来、日々の学習や生活指導、併せて行事や研修会議など、隙間無く取り組まれていたのではないかな。僕も子どもたちと向き合う時間や教材研究する時間がないと思いつつ過ごしている。今年度は50年ぶりの教職調整額の引き上げがニュースになり、現場では給与の手取りが増えるという期待があったが、結果としては自民党がうち上げていた13%にも届かないような、開いた口が塞がらないような結果になっている。我々は、これまでもうわべだけの改革ではだめだと声を上げてきた。やはり教職員の増員、教職員の時間外労働を抑制するための時間外手当の支給、教員全体の処遇改善、仕事総量の縮減がやはり重要と考える。そのような中、#1127の定時アクションの取り組みの中で、役員らの学校を中心に職場アンケートを実施した。選択肢は二つ。一つ目は勤務実態に合った残業代がほしい。二つ目は教職員を増やして定時に帰宅したい。もちろん二つかなえればありがたい話だが、現場では後者の教職員を増やして定時に帰宅したい。という声が圧倒的多数だった。やっても仕事は終わらない。人が足りないから、一人ひとりにかかる仕事が増える。そもそも教師の仕事が多すぎる。そういう皆さんの切実な声が聞こえてきた。先日のニュースでは23年度の精神疾患による休職者が7119人。昨年は6539人だったが、毎年増え続けている。今年も過去最高ということを経験している。まさに教職員はギリギリの状態だ。今の現場は教職員の善意と忍耐とで成り立っていると聞いても過言ではないと思う。

このようなことが教職員を目指す者が減ることにつながっていると思う。9月30日によく文科省も「令和型の日本型学校教育をになう質の高い教師の確保のための環境整備にかかる総合的な方策について」という通達を出した。簡単に言うと、教育課程をもっと減らせ、教職員の仕事をちゃんと分離して、先生の仕事の何かを区別つけろよ、というようなことを各教育委員会に通達を出した。残念ながら教育課程の見直しについては、この宇治久世の教育委員会ではなされなかった。周りの地域



感想から

- ・毎年この定期大会のみなさんの発言を聞くと、パワーをもらえたり、この仕事をする上で大切にしなければならないことに立ち戻ったりすることができています。
- ・仲間がいる心強さを感じることができています。スローガンにもあるように、子どもたちがいきいきと学べる居場所、安心感がある学校作り、教職員が人間らしく働ける学校作りを心がけていこうと思います。
- ・榎島小学校の特別支援学級の人数のお話、自身の学校の現状と重なる部分もあり共感的に拝聴しました。声を上げることの大切さを強く感じました。
- ・定期大会で何だろうという知識の中、参加させてもらったのですが、自分の置かれている状況、子どもをとりまく状況を知れてよかったです。活動報告など聞きながら、出来ることは協力出来たらと思っています。
- ・ありがとうございました。みんなで集まると元気になります。組合の良さをもっと伝えられるように楽しく頑張ろうと思います。



京教済は 教職員のための共済です。



掛け金600円/月で退職時に全額返金される総合共済は結婚、出産等の祝い金、災害時の見舞金等が給付されます。その他、教職員賠償責任共済や、くらしの賠償責任共済(自転車事故にも対応)などもあります。

